

## 普及活動情勢報告（令和5年5月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### ポンカンの落葉対策に取り組もう

### ～立目ポンカン出荷組合出荷反省会～



真剣に話を聞く参加者ら

4月17日、浦ノ内立目集会所で、立目ポンカン出荷組合が出荷反省会を生産者14人が参加して開催しました。

当課は、2年前から当産地で問題となっているポンカンの落葉について、対応経過を報告し、本年度から農業技術センターと協力して現地で実施している薬剤防除試験の説明をしました。続いて、同センター病理担当者から関与が疑われる炭そ病の特性や試験計画について説明しました。

参加者から、「現地試験に期待している」「今年も発生が心配」などの意見がありました。

今後も、発生状況の調査や薬剤試験結果などを参考に落葉対策の早期確立に取り組んでいきます。

### 集落営農に取り組んでみませんか？

### ～津野町中山間地域等直接支払交付金等の説明会～



集落営農の説明をする普及指導員

4月19、20日、津野町役場本庁及び西庁で、中山間地域等直接支払交付金等の説明会が開催され55人の参加がありました。

当課は、集落の農地を守るために、自分たちの集落の未来について話し合う必要性や集落営農について説明をしました。

参加者から「水田の維持や後継者の確保について苦労している」等の意見がありました。

今後も、話し合いに関心のある地域に対し、集落営農についての情報提供を行っていきます。

### ダリア栽培における天敵利用の可能性を目指して

### ～IPM技術利用現地ほ場調査～



天敵の調査を行う普及指導員

5月8日、須崎市のダリア農家でスワルスキーカブリダニを用いたハダニ類およびコナジラミ類の防除効果を調査しました。

ダリア栽培では、薬剤の効きづらいハダニ類などの害虫が発生し問題となっているため、当課は害虫の天敵であるカブリダニ類を導入したIPM技術活用について、昨年度から実証しています。

R5園芸年度は11月から6月まで調査を行う予定で、農家からは「栽培品種によって害虫の発生密度に差があるため、継続して検証したい」との声がありました。

今後は、2週間に1回の頻度で品種ごとに害虫及び天敵の発生状況を調査し、IPM技術導入の効果を検証していきます。

農業の担い手確保に向けて ～梶原高校で出前授業を実施～



高知県の園芸を説明する普及指導員

5月9日、県立梶原高等学校で、津野山地域営農連絡協議会が講師となり、梶原町の農業および高知県の園芸に関する出前授業を実施し、1年生41人が受講しました。

当課は、本県の園芸の特徴やデータ駆動型農業について紹介しました。

学生からは「販売額に対して経費はどれくらいになるのか」「規格外品を使った加工品を学園祭で販売するといった取り組みはできないか」といった質問が出されるなど、農業に対する理解・興味が深まった様子がうかがえました。

今後は、2、3年生を対象に、地域で栽培されている品目の栽培概況に関する講習や収穫・調製作業体験等の出前授業を計画しています。

収穫最盛期の栽培管理について ～津野山ミョウガ部会現地講習会～



資料説明を聞く生産者

5月10日、津野町北川地区ほ場で、津野山ミョウガ部会が現地講習会を開催し、生産者14人、JA職員1人、当課職員1人が参加しました。

当課は、5月からの温湿度やかん水等の管理について説明し、外張り遮光の活用による急激な温湿度変化の抑制事例について紹介しました。

生産者からは、日中の管理温度の考え方等について質問がありました。また、外張り遮光の開始時間について生産者同士で意見交換が行われていました。

今後も、現地研修会等の機会を用いて、生育状況に応じたハウス内環境管理について情報提供を行い、生産者の所得向上に繋げていきます。

津野山地域の農業振興に向けて ～津野山地域営農連絡協議会第1回全体会開催～



津野山地域の農業振興策関係機関で合意

5月15日、JA高知県高西営農経済センター津野山経済課「輝」において津野山地域営農連絡協議会全体会が開催されました。同協議会は津野山地域の農業振興を目的として、これに携わるJA、行政が課題の共有と今後の指導の進め方を検討する組織となっています。本全体会では、各機関の役割と活動の流れを確認しました。

当課はJAと協議を重ね、本協議会の活動を5つのプロジェクトチームに整理して、過去の実績を踏まえた本年の活動計画を提案し、本全体会で了承を得ました。

今後も営農協議会の実働部隊としてJAと綿密に連携し、協働して地域の農業振興に取り組みます。